

いきいき健康生活
鴻巣市広報「かがやき」 平成20年7月15日号 掲載
滲出（しんしゅつ）性中耳炎

滲出性中耳炎（中耳カタル・耳管カタル）とは、中耳（鼓膜の奥）に液体が貯留している状態を言います。液体が貯留した結果、難聴・耳閉感・耳鳴りおよび自分の声が耳に響くなどの症状が起こります。

カゼをひいて、のどや鼻の炎症が耳管に及ぶと耳管炎という状態になり、耳管の粘膜が腫れて中耳の換気が十分に行われなくなり、中耳腔の空気圧が大気圧と比べて陰圧となり鼓膜が奥にひっぱられ、耳が塞がった感じ（耳閉感）とか難聴、耳鳴りなどの症状を起こします。耳の痛みや発熱はありません。

● 滲出性中耳炎の原因

急性中耳炎を、中途半端に治療することによる場合

耳管が開いている後鼻腔にあるリンパ組織（アデノイドや耳管扁桃）が大きいため耳管を圧迫したり、アデノイドや扁桃の慢性炎症が耳管を介して中耳の炎症を反復して起こす場合

もともと耳管の狭い人や、カゼ気味の時飛行機やダイビングなどで急激な気圧の変化を受け、中耳腔の空気圧の調節がうまくいかない場合など

滲出性中耳炎は小児と老人に多く見られます。小児の場合、耳管が太く短く直線的なため、カゼなどの際、のど・鼻の炎症が中耳に侵入しやすいのと、アデノイドや扁桃腺が生理的に大きいため、炎症を繰り返しやすい耳管を圧迫しやすい状態です。

とくに幼稚園から小学校低学年の小児にかなり高率に認められますが、耳痛がないうえに、子どもですから難聴とか耳閉感などの症状を訴えないため見逃されがちです。

テレビの音を大きくする、後ろから呼んでも返事をしないなどの様子に気付いたら要注意で、耳鼻咽喉科専門医の診察を受ける必要があります。

一方、老人の場合、年齢的に耳管の機能が低下して滲出性中耳炎を起こしやすいと言われています。